

科学技術政策における戦略志向 の新たな視点

平成16年6月
大山昌伸

A、第2期科学技術基本計画

基本認識、科学技術は国力の根幹である

「基本理念」

- 1、知の創造と活用により世界に貢献できる国の実現 新しい知の創造
- 2、国際競争力があり持続的発展ができる国の実現 知による活力の創出
- 3、安心・安全で質の高い生活のできる国の実現 知による豊かな社会の創生

「主な施策」

- 、研究開発投資の拡充と重点化
 - * 研究開発投資の拡充(5年間の累計投資24兆円)
 - * 研究開発投資の重点化(基礎研究+8分野)
- 、経済活性化施策の推進
 - * 経済活性化の為の研究開発プロジェクト
- 、科学技術のシステム改革
 - * 競争的資金の拡充と制度改革
 - * 産官学連携の推進
 - * 主要な研究機関における研究開発の推進と改革

多くの成果と共に対応が急がれる多くの課題が顕在化！

B、顕在化した課題

、長期的な視点に基く戦略展開？

国のあるべき姿、安全保障、産業政策等—

、プロジェクトの省庁連携？

プログラム連携、政策連携、結果志向等—

、国際力学の中の日本パワー？

自己主張(ハードパワー/ソフトパワー)、国際貢献等—

C、科学技術政策を取巻く環境変化への対応

、知の世紀における科学技術大変革時代への対応

世界を先導する基礎研究の戦略的推進

、知的資産(人材、技術)の世界調達に代表される 大競争時代への対応？

科学技術と産業の国際競争力評価と競争優位

戦略の戦略的推進

、「安全保障と科学技術」への自律的な取組？

防衛と広義の安全保障に係る科学技術政策の 戦略的推進 戦

D、科学技術政策の新たな進展を 目指して

顕在化した3不在(弱点)の克服が急がれる

- 、「長期的な視点での戦略不在」
- 、「国際的な比較競争優位評価不在」
- 、「結果の蓄積不在」

E、弱点排除に向けた戦略志向の 新たな視点

平成17年度の科学技術に関する予算・人材等の資源配分方針(2項2)

「国家的・社会的課題への新たな取組みに向けた科学技術の戦略的・総合的な推進」

我が国が未来を拓き、持続的な発展を遂げる為には、より一層の戦略性を持ちつつ、国家的・社会的課題への取組みを新たにし、総合的に科学技術を推進することが必要不可欠である

視点(1)

「安心・安全な社会を構築する為の科学技術の総合的・横断的な推進」

顕在化する脅威の抑止、被害低減のための科学技術に関する取組みを強化

、個人生活の安心・安全

新興・再興感染症、食の安心・安全等

、社会・経済の安全

サイバーテロ・犯罪の脅威、社会インフラの 災害脆弱性等

視点(2)

「国の持続的発展の基盤となる重要な科学技術を精選・推進」

国の持続的発展の基盤として必要であって、長期的な国家戦略の下、目標を明確にし、関係府省が連携して国として取り組むべき重要な科学技術(*)を精選し推進する(トップダウン型)
(*国の基幹技術; Critical Technology) -

、我が国の強みのある科学技術であって、経済の発展や産業の国際競争力強化の基盤となるもの(経済の国際競争力に係る基幹技術)

ユビキタス社会実現の為に必要な関連技術、ロボット関連技術等

、安心・安全の確保など我国の維持に必要な科学技術であって、国として長期的視点に立って着実に推進する必要があるもの(安全保障に係る基幹技術)

宇宙関連技術(ロケット、衛星)、新エネルギー(水素等)関連技術等

、大きな技術革新を促し、知の世紀を先導するなど、国際社会の中で我が国がリーダーシップを発揮する科学技術であって、科学技術立国を内外に強くアピールするもの(科学技術の日本発ビッグバンに係る基幹技術)

ペタフロップ・コンピューティング関連技術等